

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホーム はごろも(ユニットI)		
所在地	岩手県奥州市衣川区古戸45		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&Ji_gyosyoCd=0372500553-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然の中で四季を感じられる。一つ屋根の下で繋がっている衣川診療所(内科、歯科)及び奥州市衣川総合支所があり、また同一法人の特別養護老人ホームも隣接していて、入居者、ご家族には手続き健康面などで連携が取りやすく安心して暮らせる体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、敷地内に母体である特別養護老人ホーム・通所介護があり、隣接して奥州市の支所や診療所もあり、福祉、医療との協力体制が図られている。今年度は特に、利用者と一緒に過ごすよう心がけ、利用者の笑顔が家族に伝わるような支援に努めた。それによって、家族との信頼関係がより深く構築され安心感につながっている。家族の面会時にも、管理者、計画作成者が不在でも対応できるよう共有しながら、取り組んでいる。地域と共に暮らし続けるために、全職員で模索しながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで生活してきた一人ひとりの暮らしの継続を目的とし、スタッフ会議や毎日のミーティング等で話し合う機会をつくっている。理念は常に見やすい場所に掲示し個々に合った援助を統一するよう努めている。	開設当時の(10年前)理念、「ありのままの、あなたに寄り添います」が定着しており、どんな状態になっても、その時、その時の姿に寄り添えるようにミーティング、申し送り、日誌、気付きノートで職員全員(2ユニット)で共有し、把握できるように流動的な実践を目指し、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や学校、幼稚園の行事等ある際には出かけている。地域の方々も隣接するデイサービス利用時に面会に来る事もある。	幼稚園のお遊戯会、小・中学校の運動会、学習発表会等には隣接のデイサービス、特別養護老人ホームと一緒に見学に出かけている。餅つきボランティアが毎年、水木だんごづくり(2名)を手伝っている。	昨年の外部評価結果に基づきながら、目標達成計画を立て、職員全員で、継続的に取り組みされるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域への介護者教室に出向き認知症の方々への理解や支援の方法について伝える機会を設けていたが現在は行えていないため、再びこのような機会を持って行かなくてはいけないと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の近況報告や施設での活動の様子等報告を行い困っている事や悩んでいることに関して助言を頂いている。入居者の方々に立場に立った意見を頂く事により心身状態の変化に合わせた支援を行うよう意識づけすることが出来ている。	運営推進会議の構成員に、元消防署長がおり、防災訓練の際には助言等頂いている。夜間の転倒事故があり、掛け布団の端に鈴をつけたり、ベッドの下に、滑り止めのマットや、クッションを置くなどの意見を頂きながらケアに努めている。	地域の中で様々なつながりや力を持つ地域関係者の関わりや、お付き合いの方法等、議題の工夫、構成員の再検討など事業所なりの有効な活用がなされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一つ屋根の下で建物が繋がっており、気軽に相談できる環境にあり助言、協力を頂いている。	区の担当者とは、認定調査の際、家族立ち会いや、事業所において、普段の様子や身体的状態などを伝えており、介護度の更新や、変更の際は家族対応が基本であるが、事情によっては職員が出向き手続きをしている。利用者の中には長期の方もおり、家族が遠方であり、利用料について相談した例もある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも(ユニットI)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議での学習会を年1回行っている。スタッフが資料を作成し読み合わせを行い知識を得るようにしている。玄関は施錠することなく夜間以外は出入りを自由としている。入居者も見守り、付添し自由に出入りできるようにしている。	身体拘束について独自の資料を作成している。主に、スピーチロックや行動を抑制しないことなどを重点に置いている。一人ひとりの動作を観察しながら、ケアに努めている。夜間の転倒防止に、7名程の方が、掛け布団の端に小さな鈴をつけながら見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は改めて行っていないが、職員、家族からの虐待防止に努めている。また、入居者間の虐待等の防止にも努めている。ニュース等で虐待の報道があった場合にはミーティング等で気を付けるよう話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について改めて学習会を行っていない。現在は権利擁護を利用されている入居者がおらず制度に触れる機会もなくなっている。パンフレット等を使って知識を持たせる機会を作りたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には本人、ご家族の悩みや意向を伺い入居する際の不安を軽減できるよう努めている。解約の際も十分な説明と話し合う機会を持ち理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事後のアンケートの実施や運営推進会議等で出された入居者の意見、日常会話の中から本人の要望や不満を聞き出せるよう心がけている。ご家族の面会の際も意見等無いか働きかけている。	グループホームの広報は、利用者の家族に配布し、利用者担当職員から日常生活の様子等も報告している。法人全体の広報は4ヶ月に1回発行されており、グループホームのコーナーもある。家族アンケートの実施は、今後の課題としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回実施しているスタッフ会議において職員の意見を聞いたり悩んでいることを話し合う場を設けている。	毎月のスタッフ会議で、行事の予定や反省を踏まえながら、利用者の状態等を話し合いながら、職員の要望を聞きやすい雰囲気づくりに努めている。外部評価の取り組みは職員それぞれに記入し、管理者とケアマネジャーで纏めた。利用者の機能低下に伴い行事も多く持てない状態になってきており、また、家族の参加も少なくなってきたのが実情である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度導入により管理者と就業内容について話す機会があり安心かつ向上心を持ち業務にあたる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会での交換研修会や法人内外での研修に参加を促している。スタッフ会議内において担当者が中心となり2か月に1回のペースで学習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会での交換研修や定例会への参加を通じて他施設職員との交流や学ぶ機会があり、サービスの見直しにも繋げている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や実態把握票等を使用した情報収集を通じて要望を聞いたり、入居後にもこまめに話をし気持ちを聞き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際にはご家族の不安や今後の要望等を傾聴する様にしている。入居当初はご本人の不安軽減のためにも面会の協力をお願いし、ご家族と関わる機会を多くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談があった場合には、現在の状況をお聞きして、場合によってはデイサービスやヘルパーの利用、他入居施設も紹介しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事はして頂き、利用者同士お互いに支え合う場面もある。また、職員が分からない昔の事などを教えていただく機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族からの意向を聞いたりこちらでの生活状況を伝えることで相互の情報共有に努めている。体調不良の際にはその都度連絡して協力を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や散髪、買い物、ドライブ等出かける機会を作り馴染みの方と交流する機会を設けている。しかし他区から入居される方については機会を作るのが難しいと感じている。	地区の秋祭りの見学や、買い物、利用者の誕生日には担当職員と一緒に出かけたり、毎月1回は、外出できる方、または希望があれば、継続的な交流が出来るよう働きかけをしているが、移動に2時間かかったり、車いすの方には負担がかかり過ぎている状況も見受けられる。他の区から来ている利用者の方も床屋など、新たな馴染みの人や場所との交流にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮しつつ、職員が間に入りながら良好な関係を築けるような支援に努めている。また、食事や日常過ごす場所にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があった場合には、今後のついて等相談に応じている。ご本人の生活状況について施設職員との相談に応じる事もある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の訴えを見つけ個人ケース、日誌等を使い職員間の情報を共有している。また困難な希望意向の際は出来るだけ近づける様に努めている。	会話の中で、毎月、顔そりをしていたことが分かり、記録している方もいる。また、髪のカットの要望には、(理容店に)来所して頂いている。本人が行きたいという要望と家族が対応できない部分で、話し合いを大切にしながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などの情報収集とその後の本人との関わりを通して馴染んだ生活様式をお聞きしている。ケアマネージャーからの情報書類により今までのサービス利用経過も知る事が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や個人ケース記録、各種の健康チェック表の記録を通じて日々の状態把握に努めている。また、毎日のミーティングにて申し送りを行い現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当の職員が主となりご本人、ご家族の意見や意向を反映した介護計画の評価を行っている。スタッフ会議内で入居者の現状を確認したうえでアイデアを出し合い課題を検討している。	毎月のスタッフ会議で、本人のケース記録や他のスタッフの意見を聞き、内容を把握しながら、管理者と計画作成者で実施している。その際に、利用者の状況変化が見られた時は、更に話し合いながら実践している。更新時期には前回の評価を記入してもらいケース検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人ケース記録や日誌、気づきノートの記録の他ミーティング時にも情報を共有している。スタッフ会議時入居者の状態変化や様子について話し合っており見直しの際参考になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞き取り日常生活の支援を行っている。変化のあった際は各部署との連携を取り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等情報を収集し希望される方々を出来る範囲でお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族が希望されるかかりつけ医を利用して頂いている。定期受診の他に必要に応じて通院している。診療所以外の通院時には最近の様子をまとめ、ご家族に渡している。	馴染みのかかりつけ医の利用者が5名おり、家族の通院の理由により、協力医である衣川診療所が廊下づたいにある。内科、皮膚科などの通院の際は、家族に利用者の状況等を文書で渡している。家族からは、結果の報告を口頭で頂き、薬等を預かり、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、入居者の体調で気になる点があれば併設の特養ホームの看護師の協力を得ることができる体制づくりになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの内科、歯科診療所との連携は普段から密にはかられ入居者が入院した際は生活の様子や本人の嗜好等必要な情報を提供している。入院中は経過の把握に努め退院後には今後の留意点などを主治医に仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた際はご家族同伴での通院対応を行い主治医と話し合う場を設けている。事業所として出来る支援と現時点では看取り介護が出来ない旨を説明したうえで他の機関への申し込み手続きの援助を行っている。	契約時に重度化した場合の対応として、事業所として出来ることと、出来ないことを説明している。家族とは、状態の変化に応じた話し合いを繰り返し行っている。法人の特別養護老人ホームから異動になった職員は、経験者が多いことから、現場で学習している。看取りは、体制的に現時点では出来ない状態である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを目につく場所に提示している。しかし、初期対応の訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防証の指導の元、年2回避難訓練を行っている。地域防災協力隊の方々にも参加いただいている。	法人全体で、法人が火元としての訓練を実施している。グループホームが火元としての訓練は行われていない。地域防災協力隊の方々も法人の協力隊となっており、グループホームとしての役割や、避難経路等職員共有として把握されていない。夜間訓練もこれからの課題としている。備蓄も法人で管理している物が殆どで、事業所では、缶詰、飲み物等がある。	グループホーム独自としての訓練も必要と思われる。夜間の避難動線の確認、誘導、見守りなど、具体的な支援方法が安心につながり、夜でも職員が適切な判断力と対応が出来るよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけ、対応を行っている。トイレ誘導や入浴などの際には羞恥心を理解しながら行っている。	普段の関わりの中で、上から目線とならないよう、特に入浴や、トイレ介助について、スタッフ会議で話し合いをしている。異性介助等へも配慮している。利用者の服装についても、選択肢の中から選んで頂けるようにしている。利用者の言葉かけにも、職員がお互いに注意し合いながら対応し、管理者も気付いた時は、その都度確認している。職員自ら、失敗したことを話すなど体制作りが出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、衣類選択等好みに合わせられる様に質問し希望を聞き出せるような対応をしている。しかし、意思表示が少ない方に対しては、職員の思いを押し付けてしまう事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外へ出たい等の訴え時には見守りしつつ出来るだけ自由にいただいている。ご自分のペースで過ごして頂けるよう他者との関係にも配慮している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも(ユニットI)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店に外出し、散髪したりしている。外出時には希望される方にはお化粧品をお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昔ながらの饅頭つくりやはっと汁、だんご汁など経験を活かして調理に参加して頂けるよう気を配っている。	日常生活の関わりの中で、一人ひとりの好きなもの、嫌いなものの把握をしている。カリウム制限の利用者もあり、配慮している。食事は朝食のみ事業所で作り、昼、夜、行事食等は法人から提供されている。畑からの各種類の野菜の収穫があり、全員で出かけるのも楽しみとなっている。昼食時間の休憩は時間差で交代とし、検食1名で、後の職員は、弁当持参としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や食事摂取量の記録を毎日つけている。ご本人の好む飲み物や食べ物を準備している。毎月1回、体重測定を行い増減等の観察を継続している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内清潔を保てるよう必要に応じて介助している。歯科から入居者別での口腔ケア指導を受けることもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄間隔を把握して声がけを行っている。トイレに行きたい様子が見られたときにはさりげなく誘導し、失敗が少なくなるよう努めている。	一人ひとりのパターンに応じて、間隔の短い方で1時間ほど、間隔の長い方で4時間ほどで行きやすいような雰囲気づくりでの声掛けを心がけている。デイサービスから、グループホームに入居された方が、リハビリパンツから布パンツになるなど、創意工夫しながら、実践に取り組んでいる。夜間でも不快にならないよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取するような声がけを行っている。ラジオ体操やレク活動、散歩など運動の機会を確保している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも(ユニットI)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は職員の多い午後の時間帯に行っている。基本的には1日おきの入浴となっている。現在夜間入浴を希望される入居者はいないが対応は難しいと思われる。	日曜日でも入浴を実施しており、利用者の方々は、お風呂は好きであるが、脱ぎ着が難しい方もおり、声掛け等に工夫しながら、入浴をしている。1対1での情報は、最も有効であり、大切な時間としている。歌を歌いながら、楽しく入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には昼寝の時間を設けている。夜間に混乱や落ち着かない等見られた場合には傾聴し安心感を持って頂けるような対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容は個人ケースに綴っており、いつでも確認できるようにしている。処方内容に変更があった場合には日誌等に記載し変化について情報共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの心身状態に合わせた役割分担を行い、その方が出来る事を見極めながら手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やひなたぼっこなど外気にあたるような活動を行っている。また、希望や季節の移り変わりに合わせてミニドライブを実施している。	一人ひとりの外出支援は、年々機能の低下により難しい所ではあるが、地域のお祭りや、衣川地区内のミニドライブ、季節ごとに1時間コース位のところで水沢方面、胆沢ダムに出かけている。冬期に向けて運動不足にならないよう、午前、午後とゲームや体操など歩く機会を増やしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理しているが、外出時等の際には入居者の希望に添って買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方からの希望があれば、職員も一緒に対応し、ご家族の方等と電話のやり取りをお手伝いしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも(ユニットI)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物には季節ごとの作品を掲示したり、花を飾ったりと快適に過ごして頂けるようにしている。また、居室やトイレ等場所が分かりやすいように目印をつけている。	グループホームの1ユニットの方々は、あまり帰宅願望もないようで、穏やかに過ごされており、もう一方のユニットの方々は、介護度も高く、コミュニケーションが難しかったり、精神的に落ち着かない日があるが、そういった状態の中で、生活動線を乱さないよう(職員は)心がけている。畳の上上がりでは昼食後、仲の良い2名の方が、おしゃべりをしていて。随所に椅子や、テーブル、ベンチ、ソファが置かれ、自由にくつろげるよう支援されており、居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファで過ごされることが多いが、少し離れた場所に和室があり静かに過ごせる。思い思いに過ごせる環境は整っていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ居心地の良い空間づくりに努めているが、馴染みのものを持参される御家族が少ないの現状である。	グループホームの固定のものとして、ベッド、整理ダンス、洗面所、ロッカー、掛け布団・敷き布団がある。それぞれの居室には、家族の写真、カレンダーなどが飾られており、敷き毛布も持ち込まれたり、床に直接マットを敷かれる方もおり、思い思いに居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印や居室前の目印をつけることでご自分で行こうとすることができるが、職員と一緒に歩くことが多くなっている。		